

令和5年度 学校評価シート

学校名： 専修学校クラーク高等学院名古屋校

目指す学校像	<目指す学校像> 「夢・挑戦・達成」を合言葉に、生徒一人ひとりの個性が輝く学校
育てたい生徒像	<育てたい生徒像（教育目標）> 未来を切り拓く「考える力」の育成 変化の激しい社会で活躍できるような主体性を持って行動出来る人物の育成

本年度の重点目標	1 【未来を切り拓く生徒の育成・卒業後に責任を持つ教育】 大学進学率65%以上
	2 【生徒の「挑戦」を促し、自信を育む教育の実践】 英検合格（準1級以上5名、2級以上20名、準2級以上45名）
	3 【特化型教育による「才能開花」の促進】 課題解決型学習関連コンテスト 入賞および全国大会出場2件
	4 【評価され、地域に根差した教育機関へ】 R6年度 新入学生徒105名以上

※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。

※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。
※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

達成度	A	十分に達成した（80%以上）
	B	概ね達成した（60%以上）
	C	あまり十分でない（40%以上）
	D	不十分である（40%未満）

年度目標					年度評価（R6年6月20日時点）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	<大学進学> ・R5年度大学進学率：73.9% → 目標を大幅に達成。とくに偏差値60以上の難関大学合格数が前年度の7件から29件と大幅に増加した。「大学進学専攻」や「学習合宿」などの学心上位層をさらに伸ばす施策が実を結んできた成果と考えられる。	適切な進路選択の機会提供 定期的な進路希望の把握 個々に応じた丁寧な進路サポート	・進路ガイダンスの実施 ・外部進学説明会への参加 ・進路希望調査（4月・7月・10月・2月） ・二者/三者面談（6月・3月） ・進路学習の実施 ・面接/出願書類指導	・進路ガイダンスおよび外部進学説明会等への参加が適切に実施されたか ・生徒の進路希望の状況をタイムリーに把握できているか ・進路学習が計画的に実施されているか・組織的なサポート体制があるか	・外部イベントへの積極的な参加に加え、校内での進路イベントの企画を実施出来た。 ・進路希望調査および面談を計画通りに実施出来た。 ・3年生に対して個別の進路計画を作成し、受験期に向けて準備を進めた。	A A A	国公立や難関私大への合格輩出を目指し、学心上位層の進路指導を拡充する。 系列大学を含め、早期に大学について実際に見聞する機会を積極的に提供し、早期に進学に向けて動き出せるよう生徒を育成する。
2	<英検合格> ・R5年度実績：1級2名・準1級13名・2級36名・準2級79名 → オンライン英検補講や自主学習EdTech教材の導入などを進め学習環境の整備を進め、大幅に目標を達成。しかしながら、英検に対するモチベーションがなかなか上がらない生徒も一定数いることから、ボトムアップの取	適切な受検機会の提供 受検者数の向上 合格率の向上	・学年一斉受検の実施（5月・10月・1月） ・適切な受検案内 ・日常的な英語力の向上に向けた指導 ・英検対策に繋がるカリキュラムの策定 ・英検対策補講の実施	・学年一斉受検の機会が適切に設けられたか ・受検を前向きに検出出来るような後押しが行われているか ・効果的な英語教育が実施されているか ・補講が計画的に実施されたか	・計画通りに一斉受検を年3回実施した。 ・個別の目標設定や声掛けにより希望者による受検を促進した。 ・オンラインによる英検補講に加え、土曜補講も実施した。	A B B	オンラインによる学習や学習アプリを活用した朝学習の取り組みを継続して、生徒の英語力向上に繋げていく。 学校全体でのチャレンジ精神の醸成を行い、生徒のモチベーションアップを図る仕掛けを具体化する。
3	<課題解決型学習> ・R5年度実績：10件（現代ビジネス専攻ビジネスプランコンテスト、最優秀賞を含む） → 最優秀賞を含む多くの成果を上げることができた。系列校であるクラーク記念国際高等学校の各種コンテストなど、機会が増加している点も追い風となっている。	課題解決型学習の取り組み拡大 学習内容の質的向上に資するアクション 成果発表の機会の模索・創出	・コース専攻での実施 ・プロジェクト型ゼミ授業の導入 ・有志による課外活動 ・キャリア教育の強化による生徒、教員の意識啓発 ・校内企画の実施 ・校外企画の模索、新規エントリー	・課題解決型学習が実施されているか。 ・キャリア学習Ⅰ、Ⅱの計画的な授業実施がされているか。 ・外部評価を得る機会を創出しているか。	・心理福祉、プログラミングにおける課題解決型学習の推進に注力した。 ・学年担当教員によるキャリア学習ⅠⅡの授業実施を行い学年運営と連動。 ・学習活動とコンテスト等の連動を強化した。	A A A	協働的な学びの創出をより一層推進し、コース専攻などの特色ある科目の中だけでなく、一般科目の学習においても機会が創出できるよう、校内でのノウハウを共有出来る機会や研修の機会を設け、教員のスキルアップを図る。
4	<新入生募集> ・R6年度実績：113名 → 昨年度の成功要因を分析し、今年度の計画を立案。4期連続の目標達成となった。	中学校への広報活動の強化 外部へのPR活動（HP、広報物、プレスリリース等）の充実 来校者を確実に意願に導くアクション	・中学校訪問の確実な実施（7月・10月・11月・1月） ・HP記事の確実な掲載 ・広報ツールの作成 ・プレスリリースの実施 ・広報委員会、学校説明会の質的向上 ・教職員の面談スキルアップ	・中学校訪問に向けた準備が整っているか。（訪問指示、持参物） ・HP記事の掲載数。 ・プレスリリースがかけられる教育の実施。 ・広報委員会の指導が適切に行われているか。 ・広報研修が実施されているか。	・遅滞なく、計画通りに訪問を実施した。 ・HP記事の掲載に加え、Tiktokへの広告出稿も行った。 ・広報委員会には40名超の希望生徒が集まるなど、良いアクションが出来た。	A A A	計画的に生徒募集活動が行えている。安定した生徒募集のために絶えず内容の見直しや新たな取り組みの創出などを継続して行っていく。

学校関係者評価	
実施日	令和6年7月1日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
不登校経験のある生徒や幅広い学力層の生徒を預かる中で、大学進学だけではなく、生徒の卒業後の進路決定を丁寧にサポートしている。今後も一層の、先生方の努力を期待する。	
多くの生徒が英検合格を実現しており、インターナショナルコースを中心とした英語教育の成果のひとつであると評価できる。英語がどうしても苦手な生徒などに対して、それ以外の目標を見つけさせ、そこに向かって努力できるような環境の整備も合わせてお願いしたい。	
外部からの評価が得られるという点においても、コンテスト等へのエントリーは生徒自身の刺激にもなるため、今後も大いに推進していきたい。	
今後もひとりでも多くの生徒が、自分にあった学校で学ぶことができるよう取り組んで貰いたい。	